

会 議 録

会議名	令和４年度東浦町地域包括ケア推進会議在宅医療介護連携部会	
開催日時	令和５年１月２３日（月） 午後１時３０分から２時３０分まで	
開催場所	東浦町役場　３階　合同委員会室	
出席者	アドバイザー	荒井秀典氏
	委員	中野禎氏、平林直樹氏、杉本初枝氏、稲吉美紀氏 日高啓治氏、権田順氏、吉田禎宏氏、新美あかり氏、 楠元亜紀氏、辻博樹氏、山崎紀恵子氏、相羽竜成氏、 渡會五月氏
	事務局	鈴木健康福祉部長、内田ふくし課長、植田ふくし課 地域包括ケア推進係長、高橋ふくし課地域包括ケア 推進係主事、小田健康課長、伊藤健康課成人保健係 長、鶴島健康課成人保健係主任専門員、高見東浦町 社会福祉協議会事務局長、小林東浦包括支援センタ ー包括係長、千綿東浦包括支援センター主査
欠席者	１名	
議題	１　あいさつ ２　議題 （１）令和４年度の事業報告と令和５年度の事業計画について （２）在宅医療介護連携部会の進捗状況について （３）電子@連絡帳の運用について （４）骨折予防プロジェクトの取り組みについて ３　その他	
傍聴者の数	１名	
審議内容	※事務局 開会 １　あいさつ ※健康福祉部長 ２　議題	

	(1) 令和4年度の事業報告と令和5年度の事業計画について ※事務局 会議の位置付けについて説明。東浦町が目指す地域包括ケアの姿を「ふだんのくらしの幸せを守り、支える」こととし、この姿を形にするために、地域包括ケア推進会議が存在しており、本日の在宅医療介護連携部会が設置されている。 また、在宅医療・介護連携事業の目標は、「住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく暮らせるように、地域の医療・介護の専門職が連携し、本人の自己決定を支えることができる」こととしている。この目標に向かい、本会議の委員の皆さんを始め、ワーキンググループ等、地域の皆さんのご協力のもと、取組みを進めている。 令和4年度事業について。ワーキンググループを合計5回開催。ICTの運用として、電子@連絡帳、おだいちゃんネットワークの活用促進、東浦町版口腔観察シートを運用。多職種研修会は11月7日に開催。地区別住民啓発活動は、「わたしのこれからノート」の啓発として、サロンを対象とした出前講座を4回開催。在宅医療・介護に関する住民用啓発パンフレットは、改訂版を作成した。 令和5年度事業計画について。医療介護関係者向けアンケートを実施する。町内医療機関、介護事業所等で働く専門職に対し、4年に1回実施しているもの。その他、各ワーキンググループ、多職種研修会、住民啓発について、PDCAを意識し、引き続き実施していく。 ※部会長 質疑応答を促す ※アドバイザー 保健事業と介護予防の一体的実施について、ロードマップ内に位置づけがないが、令和5年度から始める認識でよいか。 ※事務局 ロードマップ上には位置づけていないが、令和5年度から実施していく。 (2) 在宅医療介護連携部会の進捗状況について ※事務局
--	--

	令和4年度における、各ワーキンググループの取組みについて報告する。 I C T・多職種連携ワーキングは、3回開催し、主に4つの事項について検討した。 多職種連携研修会は、正しい口腔ケアと食形態の知識を身につけ、利用者の在宅生活を適切に支援することを目的とし、11月7日に会場とオンラインのハイブリッドで開催した。現場で活かせる口腔ケアの実施方法、とろみ剤の使い方やミキサー食について講義いただいた。 東浦町版口腔観察シートは、どんな職種でも簡単に口腔状態の異変に気付くことができるようになることを目的に作成し、今年度より運用開始。町内3歯科にご協力いただき、相談窓口を設置している。 令和5年度取組予定は、東浦町版口腔観察シート及び歯科相談窓口の活用促進、多職種連携研修会を実施し、専門職がお互いの役割を理解し、目指す支援の在り方を共有すること、顔の見える関係を作ることを目指す。 A C P・住民啓発ワーキングは、2回実施し、主に3つの事項について検討した。 A C Pの普及啓発は、人生の最期を自分で決め、実現することができるようになることを目的とし、「わたしのこれからノート」を活用した出前講座を実施。人生会議の説明や、もしバナゲームで参加者への理解を促進した。「わたしのこれからノート」のチラシの作成、町広報紙への掲載を行い、住民の目に触れる機会も確保した。 「よくわかる在宅医療&介護」パンフレットは、改訂版を作成、配布した。医療機関等の一覧の情報を更新し、認知症対応や、バリアフリーの情報を整理した。 令和5年度取組予定は、小さな単位での住民向け啓発を実施していく。また、町広報誌へ、在宅医療・介護に関わる専門職の仕事内容の紹介や、町内で働く専門職からのコメントなどを掲載し、在宅医療・介護を身近に感じてもらう。 ※部会長 質疑応答を促す ※アドバイザー
--	--

	現状や目標数値、KPI をどのように設定しているか。あるいは根拠はなにか。 ※事務局 評価指標としての項目は設定しているが、実際に数値が適切な のか、継続評価するための統計データは何を用いるかを整理、見 直しをしているところ。 ※アドバイザー 現状やニーズを把握の上、目標数値を設定すべき。 ※委員 令和元年度に実施したアンケート結果から、歯科領域との連携 に課題があった。ICT・多職種連携ワーキングでは、介護現場で 口腔ケアの重要性の認識を広げ、多職種で異変に気づける体制を つくるため東浦町版口腔観察シートを作成した。現状、相談件数 は少ないが、連携を進めていきたい。 ※委員 これからノートやACPの啓発について、今年度はサロン等の 小さい単位で実施。施設従事者や、施設利用者が理解できる場を 設定してもよかった。 ※委員 多職種連携研修会を通して、ケアを実施に行っている人に、口 腔ケアの重要性が伝わったのではないかと思う。 ※委員 多職種連携研修会を通して、口腔をきっかけとした連携が、現 場から裾野が広がっていけばいいと思う。 ※アドバイザー 口腔観察シートはよくできていると思う。写真が添付できる様 式になっているので、オンラインで相談できる体制があるとい い。また、口腔状態の変化の記載欄も追加してもいいのでは。 ※委員
--	---

	日常療養支援や入退院支援も目標としているが、どのワーキングで検討していくのか。 ※事務局 ニーズ把握や課題分析が進んでいない状況。具体的にワーキンググループを設定し検討していく段階ではないと考えている。 ※委員 ACP普及啓発は、継続が必要と感じる。サロン等の参加者は意識が高い。民間企業等での出前講座ができると新規層へ啓発できるのでは。在宅介護パンフレットも、介護事業所新規利用者も多いので積極的に配布していただきたい。 (3) 電子@連絡帳の運用について ※事務局 これまでの経緯として、申請書の提出を不要とするなど、支援者が使いやすいよう、運用方法を改善してきた。直近3年間の、おだいちゃんネットワークの実績は、特に、介護サービス事業所の利用者が多く、積極的に活用いただいている。患者登録件数、患者関連記事数は、毎年新規登録されており、継続して活用いただいている。 ※委員 特に意見なし (4) 骨折予防プロジェクトの取り組みについて(資料4) ※事務局 平成30年度に医療や介護に関するデータ分析を行った結果、東浦町の入院費総額第1位が骨折であったため、骨折予防プロジェクトを開始した。10月を骨折予防月間としており、令和4年度は、食から考える骨折予防について、料理研究家の浜内千波先生と、名古屋大学の水野正明先生にご講演いただいた。 健康課では、骨粗しょう症対策に重要な、女性ホルモンに着目し、女性のための若返り&美講座を実施。 食を通じて骨折予防を考えるきっかけとするため、ご当地グルメ開発を実施している。 ※部会長
--	---

	質疑応答を促す ※アドバイザー 診療報酬改定で二次性骨折予防管理料が新設されたが、診療所は2次予防にどれくらい積極的なのか。 コロナ禍で小中学生、特に女子中学生の体力低下が顕著。小学生や中学生に向けても啓発できると良い。 ※事務局 二次性骨折予防の診療点数の申請状況は把握していない。 小中学生向けの取組は、グルメを切り口に学校給食から啓発、教育を進めていきたいと考えている。 ※委員 入院費総額の変化はあったか。またプロジェクトへの参加の有無による差異が示されたようなデータはあるか。 ※事務局 入院費総額の変化はなし。 定点的に同じ方に参加していただくような取組ではなく、周知啓発の事業になっているため、差異がでるようなデータはない。 ※委員 グルメ開発で関わらせていただいている。飲食店を含め様々な分野の方とつながりができ感謝している。住民同士の横ぐしを刺し、取組を進めていければと感じている。 ※委員 講演会に参加させていただいた。若い夫婦も参加しており、食という切り口は幅広い世代から関心をもってもらえる。知多半島内では、どの市町も入院費総額は骨折が上位。東浦町でぜひ継続して事業を進めて欲しい。 ※委員 若年から高齢者まで骨折予防は重要。リハビリが必要な高齢者を支援していると食事、栄養も大切と感じる。高齢者をターゲットとした啓発もできるといい。昔行っていた飲食店に行けるよ
--	---

	う、安全に食事するための飲食店側の受け入れも必要。飲食店で高齢者が食べやすい工夫もあるといい。 ※委員 女性も大事だが子供も大事。多世代交流の場として骨折、骨粗しょう症をテーマとして活用できるといいのでは。企業にも協力いただき、親と子と孫３世代で参加できるような場をつくってもいいのでは。 4 その他 なし 閉会
備考	なし